

3 国営公園の計画と調整事項

(1) 国営公園の計画

キトラ古墳周辺は、国営飛鳥歴史公園5地区の中のひとつ「キトラ古墳周辺地区」として整備が進められた。国営飛鳥歴史公園は、総面積約60haある飛鳥の豊かな自然と文化的遺産の保護、活用を図り、その豊かな自然と深い歴史を感じ取れる歴史公園として国土交通省によって整備された。以下の5地区からなり、それぞれの特色を生かした公園づくりが行われて、昭和49年（1974）から順次開園している。

1. 研修宿泊所「祝戸荘」がある祝戸地区
2. 蘇我馬子の墓と伝えられる石舞台古墳がある
石舞台地区
3. 展望台から飛鳥の風景を一望できる甘樫丘地区
4. 高松塚古墳が立地し、飛鳥歴史公園館、高松塚壁画館が設置された高松塚周辺地区
5. 古墳壁画が発見されたキトラ古墳のキトラ古墳周辺地区

キトラ古墳周辺地区は、特別史跡キトラ古墳を周辺の自然環境や田園環境とあわせて一体的に守るとともに多くの人が飛鳥の歴史や文化、風土を味わい過ごせるよう整備が計画されていた。

地区内は、自然環境のなかで飛鳥に関わる農体験やクラフトなどのプログラムやイベントを楽しめる施設の整備が計画され、キトラ古墳の隣接地の北側には「キトラ古墳壁画体験館 四神の館(本館)」の建設が進められた。



Fig.18 飛鳥歴史公園
(出典：国営飛鳥歴史公園H.P.より)



Fig.19 公園計画全体図（平成22年9月の基本設計 国営飛鳥歴史公園事務所提供）

（２） 国営公園計画との調整事項

特別史跡キトラ古墳の環境整備工事を行うに際しては、歴史公園部分との一体的な整備を図るために基本計画、実施設計、整備工事の各段階で国営飛鳥歴史公園事務所との協議を行い、事業を進めた。特に本整備対象地である史跡指定地は、東以外の三方を歴史公園に取り囲まれるために雨水排水の処理、園路の接続、公園灯等について調整が行われた。

整備する史跡指定地からの豪雨時等の雨水排水は、下流に整備される古墳鑑賞ゾーンに設けられる地下調整池に流入後、一定量以上の雨水は一旦溜めてから放流することにより、下流の大和川水系における降雨時災害防止を行う様に整備計画が練られた。

また、整備地を東西に通る園路は、東西共に公園園路と接続されるため舗装材の統一を図るだけでなく、その接続箇所及びルート、並びに造成レベルについて中心的に協議がなされた。園路は、東は村道阿部山23号線、西は村道平田阿部山線というように既設の村道に接続されることとなった。史跡整備前の墳丘前面の旧村道阿部山6号線は直線的なルートであったが、史跡内及び公園内の周遊可能な園路として計画し、墳丘西側尾根復元部を大きく迂回するルートとして長く距離をとることにより、旧村道よりも緩い勾配の園路とするように配慮した。